

藤本一馬 guitar
 北村聡 bandoneon
 福盛進也 drums
 from München

2020 01月05日(日)

開場 16:30
 開演 17:00~

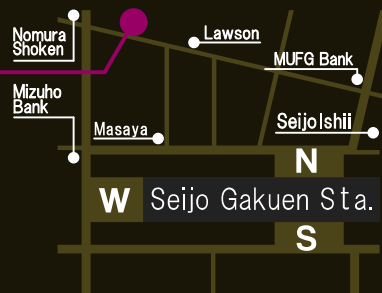
(2ステージ 入替なし 途中入場可) (1drink=600円~)

MC 3500 円+2drinks order

CAFE BEULMANS

03-3484-0047
 info.cafebeulmans@gmail.com
 東京都世田谷区成城6-16-5-2F

メールでのご予約の場合、
 必ず当日ご連絡がとれる電話番号を
 ご記載ください。



北村聡

1979年生、奈良県出身。関西大学在学中にバンドネオンに出会い小松亮太に師事、ピアノ・バイオリンではフリオ・パネのレッスンを受ける。カナダ、チリ、アルゼンチン、韓国、シンガポールなど世界各国のフェスティバルに出演。11年、アストル・ピアソラ五重奏団元ピアニストバプロ・シエグレルのアジアチームに選抜される。14年、東京オペラシティ リサイタルシリーズ「B→C」に出演、意欲的なプログラムに挑戦し好評を得る。17年、ミカ&リチャード・ストルツマンより招聘され、カーネギーホールにて演奏。18年、中谷美紀主演の舞台「黒蜥蜴」に演奏で参加。これまでに鈴木大介、館野泉、波多野睦美、夏木マリ、エゴ・ラッピン、川井郁子、中島ブユキ、ディエゴ・スキッシン、東京交響楽団と共演、ジャンルを越え数多くの音楽家と交流している。現在、喜多直毅クアルテット、ジャノタンゴ、三枝伸太郎 Orquesta de la Esperanza、クアトロシエントス、大柴拓カルテット等に参加、活動中。



藤本一馬

ギタリスト、コンポーザー。1998年ヴォーカルのナガシマトモコとのデュオ、orange pekoeを結成。2002年1stアルバム「Organic Plastic Music」が35万枚のセールスを超え、クラブミュージックを通過し、ジャズやブラジリアンミュージックを融合した音楽性が大きな話題に。2010年よりソロ名義でのライブ活動を開始。雄大な自然からの着想、自己の内面を投影した叙情的なオリジナル楽曲を中心に、ジャズやクラシック音楽だけでなくワールドミュージックリスナーなど幅広い支持を得る。これまでカルロス・アギーレ(pf)やアンドレ・メマリー(pf)等をフィーチャーしたオリジナル作品、また伊藤志宏(pf)とのデュオ作を発表し、2016年作の「FLOW」では林正樹(pf)と西嶋徹(cb)とのトリオを軸にシルビア・イリオンド(vo)、ジョアナ・ケイロス(c)を迎え録音。フォークロリックな感性と室内楽の持つ静謐さを内包したコンテンポラリー・ジャズへ昇華させた。その他、これまで国内および海外まで多数のアーティストと共演。



福盛進也

独特で繊細なシンバルワーク、そしてメロディック且つリズムミッドなインタープレイで演奏を展開させるドイツで活躍中のドラマー。またダイナミクスの幅が広く詩情的なプレイを得意とする。1984年1月5日、大阪市阿倍野区生まれ。15歳でドラムを始め、17歳の時に芸術高校にて音楽を学ぶために単身で渡米。その後、ブルックヘブンカレッジ、テキサス大学アーリントン校を経て、ボストンのパークリー音楽大学を卒業。10年間のアメリカでの活動後、2013年に拠点をミュンヘンに移し欧州各国で活動を開始。繊細で巧みなドラム・プレイだけでなく、作曲家としても高い評価を得ている。2017年に自身のトリオで、ECMレーベルから日本人二人目となるリーダー・アルバム「For 2 Akis」を録音し、2018年2月に世界リリース。現在、トリグヴェ・サイム (sax)、ウォルター・ラング (pf) との新たなトリオの他、リー・コニッツ(as)、フローリアン・ウェーバー(pf)、山下洋輔(pf)など様々なアーティストとの演奏活動、また日本では伊藤ゴロー (g)、佐藤浩一(pf) とのプロジェクト「land & quiet」などで活躍中。